

## <発達支援講演会を開催しました>

令和元年 11 月 19 日（火）に、札幌コミュニティプラザに於いて、保護者を対象として発達支援講演会を開催いたしました。今回は、金澤俊文先生（社会福祉法人麦の子会地域支援部長）をお招きし、「将来を見通した子どもへの支援～育つ力・育てる力～」というテーマで、障がいや支援を必要とする子どもの困り感の理解や、将来の社会参加に向けて必要な力を、どのように育てていけばよいのかを実際の事例を通して講演していただきました。その講演の内容をいくつか紹介します。

### ○自分で助けを求められることが大切

社会参加していく中で、家族以外の周囲の人に援助を求められるかどうかはとても重要なことで、援助を求められるというのは、人を信頼しているということの現れである。育ちの中で、人に対する安心感がしっかりと育っていることで、援助を求める力になり、様々な物事への意欲の育ちにもつながっていく。人への信頼感・安心感は、幼い頃からの母親をはじめとする養育者との愛着、信頼関係によって生まれ、発達の源となる。



### ○それぞれの得意・不得意や困り感を理解する

障がいとは、生活上の不自由さと捉えることができ、家庭や学校などで支援を受けたり、本人の環境への適応などによって不自由さ、困り感が小さくなれば、障がい自体も小さくなっていく。将来的に地域社会の中で生活していくためには、本人たちが地域に慣れ適応していくことだけを求めるのではなく、周囲の関わる人や地域全体が、本人たちの特徴・苦手さなどを理解し、地域全体の中で生活しやすいように変わっていく、受け入れていくことが求められる。

### ○社会参加をめざして必要なこと

地域で暮らしていく中で必要な要素は、①穏やかに心が安定する（人を信じ、人を頼る）、②自分で考え行動する（自己主張、自信をもつ）、③生活する（自分でできる身の回りのこと）、④働く（楽しく素直な態度で働く）、⑤楽しむ（余暇活動、ストレスの発散）である。障がいの有無に関わらず、子どもの成長の中で、心の育ちや、人との関わりの中で、こうした力を身に付けていくことが重要である。将来を見通した時に、⑤のいかに趣味・余暇を持っているかということが大切であり、働くようになったときには、余暇をいかに過ごせるかを生活の充実のためにも考えていかななくてはならない。また、障がいや支援を必要とする子どもだけではなく、きょうだいにも目を向け、家族それぞれの思いが満たされるように、家族全体の心の安定も考えていかななくてはならない。明るい雰囲気作りや、それぞれのストレスの発散など、地域で生活していくためには家族全体のバランスをとっていくことも望まれる。

